



### 辺留(べる)※方言名：ブル

夏場に海から昇る朝日、旧暦15日の満月・星空が感動するほど美しいと言われる辺留集落。旧暦の1日、15日に干潮になると、入口側からサンゴ礁が広かり、夏場は昼、冬場は夜に漁をすることができます。

1



#### 辺留海岸 (コボレ岩)

辺留海岸は昔マーシィヴ（馬競争）、舟競争も行われていた。リーフにはコボレ岩があり、ツウズンゴモリは深く、子供たちの遊び場だが南側の海岸には畏れる場所もある。

旧暦1月15日は香たてや家の周りに撒くシュツケスナ（波打ち際の砂）で清め、ハブ除けや室内安全を祈る。

2



#### ティミゴラ

ブルは3つの川が流れ、水に恵まれている。集落北側を流れるティミゴラ、畑地に整備されたブルゴラ、南側を流れるメイキヨゴラがある。いずれも生活用水であり、ティミゴラではクビキリヤウワフア（首のない豚）が出没すると言われ畏れられている。ブルゴラ上流にはドンドンゴラの滝がある。

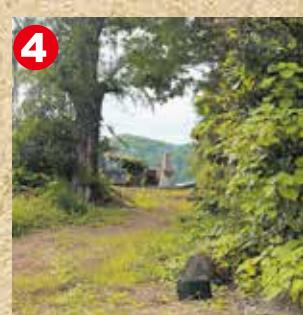
3



#### ウッタンチヂ

集落の南西側の小高い森になっている場所がウッタンチヂである。ここに登ると集落が一望でき、頂上には祠がある。周囲は有段をなし、明らかに添え郭的な機能を有する見張り台と思われる。集落行事の校区相撲、敬老相撲、そして雨乞いの祈りなどもここで行う。

4



#### イナバカ

辺留(ブル)集落の共同墓地・フーバカでなく一族と近隣のみがひっそりと埋葬されている墓がある。そのことをブルでは昔からイナバカと呼んでいる。美しい砂浜海岸にほど近く廻りは、モクマオの木々で囲まれ古き時代を偲ばせる。

また、ブル最古の墓石と思われる一部が今も残っている。

5

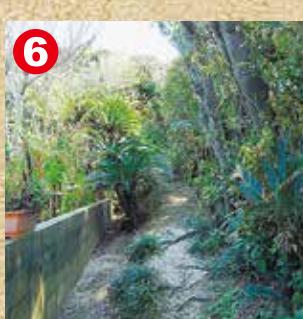


#### アミイゴ

ブルの南側、須野崎台地は舌状に突き出しており、須野との境である。先端はブル、スノの人々が畏れる場所である。

水神様のあるアミイゴは西側斜面の下にあり、カミサマが禊をする聖なる場所である。現在はカミサマになる人も少なくなり、藪に覆われている。

6



#### カミミチ

須野崎の台地・アミイゴより東側には台地の上に登る細い道がある。小道はガジュマルとソテツに挟まれ鬱蒼としている。登り口部分は民家の脇を通り、今でも白い浜砂で清められ、シマの人が聖域とする「神道」がここに残る。この道はシマンチュが大切に敬う場所であるため、中に入らずに入口で見て欲しい。

7



#### サンゴの石垣

ブルのシマは、人々が移住してきた地区と古い要素の残っている地区がある。南側は戸数こそ少ないが、カミミチ、アミイゴ、ケンムンなど聖域的な場所やサンゴの石垣を有し、小道の残るシマである。民家の一部にはサンゴ石垣があり、ミンコ（イタビ）に覆われ、懐かしい風景が残る。

8



#### ハーミシャ岩

辺留（ブル）は北からブルグスク、ヒヤンゴ、カネンゴ、マッコ、ニャートに区分され、ブル集落は昔はブルグスクにあったが、大火で笠利とブルに移動。ハーミシャ岩はブルの南側にある須野崎先端部をなす海岸にある。

ここには伝説の大男・須野ホジョロムイの足跡岩があり、またケンムンが出没すると畏れられる場所である。